



党首都圏整備特別委員長に就任

特急スペーシアの春日部駅停車、外郭放水路完成に次ぐ……

連続立体交差事業に関して石川市長と共に冬柴大臣に陳情書を渡す

春日部駅付近連続立体交差事業実現へ

お出かけの際や出勤の際に、なかなか開かない踏切にイライラしたことはありませんか。日本にある踏切の数は、約3万5千ヶ所。東京とパリの踏切数を比較するとその数はなんとパリの50倍もあるのです。そのうち、よくテレビなどで報道される「開かずの踏切」は、約600ヶ所あると言われています。そのような現状で踏切事故は、年間約400件発生しており約300人もの死傷者が出ています。

春日部駅付近も連続立体交差事業を長年に渡り要望してきた



峰久国土交通事務次官に要望

駅の一つです。春日部駅は、東武伊勢崎線と野田線が通っており、地上駅のため東西の自由通路はありません。東武鉄道では、これまでに駅利用者に対し利便性向上のため、各ホームへのエレベーターの設置、東側跨線橋の西口改札連絡通路の改良を行ってきましたが、約7万人の利用者にとっては、構内は狭く、抜本的な対策が求められています。また、歩行者は地下道を利用し、車は内谷陸橋もしくは「開かずの踏切」として有名な伊勢崎線124号踏切を利用せざるを得ない状況です。そのような中、2005年度に「連続立体交差事業」の着工準備が採択されました。現在は都市計画決定に向けて関係機関と協議しているところですが、この事業の早期着工を実現するため、私は今年8月に春日部市長と共に国土交通省の冬柴大臣、望月副大

臣のところへ陳情に行っていました。

また、今年は5月にも、春日部市長、吉川市長、松伏町長と共に、東埼玉道路の整備促進の要望のため、尾見財務大臣(当時)と望月国土交通副大臣(当時)を訪れました。

東埼玉道路は、現在、八潮市から吉川市川藤の間5.7kmの測道部が供用区間として開始されていますが、終点部分は越谷市と吉川市の市境で、しかも、吉川市中心部とは中川を隔てて越谷側となるため、実質上は越谷市増森までしか達していない状態です。そのためこの度の要望活動では、春日部市水角までの整備延伸と国道16号までの早期事業化、首都圏中央連絡自動車道までの延伸を計画の中に盛り込むよう申し入れました。このバイパス道路が出来れば平行する国道4号や周辺の県

道などの交通混雑が緩和されるばかりでなく、バイパス沿線には開発事業が計画されていますので、私たちの地域の活性化にもつながります。

過去、外郭放水路については議員になってから足かけ10年かけてやっと完成しました。また、特急スペーシアに関しても、多くの皆様からのご支援を頂き東武鉄道に陳情に行くことで春日部駅に停車することになりました。このような活動は長い期間がかかりますが、これからも皆さんとともに頑張ってまいります。



望月国土交通副大臣(当時)へ要望書を手渡す



中野蓮田市長と共に額賀財務大臣を訪問

スマートインターチェンジ実現に向けて

蓮田SAにスマートインターチェンジを

車の利用者が増加すると共に高速道路が発達して年々便利になってきていますが、もっと近くにインターチェンジがあったらと思うことはありませんか。そのような声に応えようと、サービスエリア（SA）やパーキングエリア（PA）からも車両乗り入れを可能とする「スマートインターチェンジ」という計画があります。私たちの地域では、東北自動車道の久喜ICと岩槻ICの間の蓮田SAに、「ぜひスマートICの設備を」という声があり、その早期実現のために、私は、国土交通省の要望活動に取り組んできました。蓮田SAのスマートIC化が実現す



冬柴国土交通大臣に首都圏整備について陳情

れば、利用者の利便性が向上するばかりでなく、地域経済が活性化し、皆さんの生活の充実性も高くなります。

このように利便性の向上に取り組む一方で、蓮田市においては、学術史上著名な遺跡である「黒浜式土器」が出土されていることから、この地域の保護にも力を注いでいます。「黒浜貝塚」は全国的にみても特異な遺跡として親しまれ、平成18年には、国指定記念物史跡に指定され、蓮田市は「黒浜貝塚」の管理団体に指定されました。そして史跡公園として多くの市民、県民が訪れていただくような場所にしていくため公有地化を望んでいます。そこで私は11月に、中野市長と共に文化庁、文部科学省、財務省を訪れました。多くの史跡管理団体の陳情がある中で要望が通ることは容易ではありませんが、皆様のために蓮田市のために今後も頑張ります。

首都圏中央連絡自動車道（圏央道）に関する陳情

視点を首都圏エリアと広げると、大規模な道路計画として首都圏中央連絡自動車道（通称＝圏央道）があります。圏央道は、都心から半径およそ40kmから60kmの位置に計画されている延長約300kmの自動車専用道路です。都心から放射状に伸びる東名、中央、関越、東北、常磐、東関東等の高速道路と接続すると共に東京外郭環状道路や東京湾アクアラインと連携することによって首都圏広域の幹線道路網を形成しますが、この道路が開通することにより、混雑の緩和はもちろんのこと物流改善、CO2の大幅な削減をすることができます。



東埼玉道路に関する陳情のため尾身財務大臣(当時)を訪問

埼玉県13区では、久喜市・菖蒲町・宮代町・白岡町に関わっており、圏央道が完成すると久喜市から成田空港までの移動時間が70分、中央道までは55分と大幅な時間短縮が見込まれています。着工はすでになされていますが、早期完成をすればという地元の方々からの強い要望を胸に8月に冬柴国土交通大臣の元へ陳情に行き参りました。平成17年度11月国土交通省は、「目標宣言プロジェクト」を公表し、圏央道全体を今後約10年で開通させることを宣言しています。久喜市内の完成は、この宣言によると、久喜白岡ジャンクションから西については、平成22年度、東については平成24年度の予定になっています。これからも、早期実現のため、地元の方々の熱い思いと期待を胸に陳情活動を行ってまいりますのでご支援よろしくお願い致します。

PROFILE

衆議院議員 土屋品子（つちやしなこ） 1952年生まれ。粕壁小、浦和岸中、共立女子高を経て、聖心女子大学文学部歴史社会学科卒業。栄養士、短大・大学客員教授。1996年10月の総選挙で埼玉13区より初当選。衆議院議員。現在4期目。厚生委員、法務委員、決算行政監視委員、青少年問題に関する特別委員会理事、衆議院憲法調査会、外務省大臣政務官、党国土交通専任部会長、党外交部会長、党政調副会長、外務委理事、内閣委委員を歴任。現在、環境副大臣。他に、日本エジプト友好協会理事、国会議員フットサルクラブ会長、対人地雷全面禁止推進議連副会長、日本アイランド友好議連事務局長、日本カナダ友好議連事務局長。